

## . The Antecedents

歴史家	対立点	重 役
<b>競争と独占の問題</b>		
<p>様々ながめつい戦術をとって、デュークはシガレット独占からの利益を搾り取り、他のタバコ製品の生産者達に彼の会社と合併するかこの事業を断念するかのどちらかにせよと迫った。</p>	<p><b>ジェームズ・デュークとアメリカン・タバコ・トラストによる産業独占について</b></p>	<p>デュークは古きアメリカの企業家精神（優れた製品、大量生産の優れた方法、卓越した流通とマーケティング・キャンペーン）によって彼の地位を獲得した。</p>
<p>司法省と裁判所が行ったことは、独占を緊密な寡占、つまり少数の企業（この場合、旧タバコトラストからつくり出された4大企業）によって支配される産業に置き換えただけだった。</p>	<p><b>1911年の反トラスト判決について</b></p>	<p>タバコ産業に競争を再び回復することに成功した。</p>
<p>この裁判において、またも最高裁判所は最大級の企業が共同で競争の場を独占化していると断罪した。</p>	<p><b>その30年後の司法省による別の反トラスト訴訟について</b></p>	<p>法の曲解。われわれは分別あるビジネス人として振る舞ったがために断罪された。</p>
<p>現在、個々の州政府は、</p> <p style="padding-left: 20px;">健康問題の研究における競争を抑制しようとして共謀したこと、</p> <p style="padding-left: 20px;">消費者に正確な健康情報を普及する競争を抑制しようとして共謀したこと、</p> <p style="padding-left: 20px;">より危険の少ないタバコ製品を開発する競争を回避したこと</p> <p>について、タバコ会社を訴えている。</p>	<p><b>競争について</b></p>	<p>一方ではあまりに多くの人々に喫煙させたと攻撃され、他方では、より多くの人々に喫煙させるために十分激しく競争していないと非難される。</p>
<p>喫煙の健康的帰結について研究すること、</p> <p>喫煙の危険について人々により十分に知らせること、</p> <p>消費者が選択できるような、より危険の少ない製品を開発すること</p> <p>に関して競争を制限していることが問題。</p>		<p>人々が消費する製品を自由に選択するのを思いとどまらせるように行動すると産業に要求する異様な競争論。</p>
<b>健康問題</b>		
<p>実際に、健康問題は消え去らなかった。</p>	<p><b>健康問題について</b></p>	<p>小さな氷塊がタイタニックの航海を妨害したようなもの。</p>

<p>ルーシー・ペイジ・ガストン；全国反シガレット連盟を起こし、実際、1920年の大統領選挙に出馬した。</p> <p>1893年に、多くの州がシガレットの製造、販売、使用、広告を非合法化していた。1907年にはイリノイ州がこの四つすべてを非合法化した。</p> <p>トーマス・エジソン；喫煙者を雇うことを拒否した。</p> <p>ヘンリー・フォード；「もしありとあらゆる犯罪者の歴史を研究すれば、そのほとんどは喫煙の常習者だとわかるだろう」</p> <p>当時の小学校の教科書；タバコは「脳の細胞」を毒し、結果として喫煙者の「考えは輪郭の明瞭さを欠き」、「抽象的思考をひらめかせ、保持する能力が損なわれる」</p> <p>あるカウンセラー；「もし、息子が彼にうそをついていたり、扱いづらくなったり、働きたがらなくなったりしたことに父親が気がついたならば、だいたいにおいて息子はシガレットを吸っているとみてよいだろう」</p>	<p align="center"><b>各人や各グループの意見など</b></p>	<p>ミス・ガストン；生涯一服のタバコも吸いませんでした。大統領選挙の直後に咽喉癌で亡くなった。</p> <p>パーシング将軍；第一次世界大戦にアメリカが勝利するために何が必要だったかを尋ねた「弾丸と同じくらいタバコが必要でした」と。YMCAと赤十字はこの要求に即座に反応してきた。</p> <p>第二次世界大戦；捕虜収容所の囚人の間ではシガレットは通貨の代わりとして用いられさえしたのです。</p>
<p>多くの実力あるグループが彼の発見や、他の多くの研究者によって報告された発見を深刻に受け取った。</p> <p>アメリカ医師会はその雑誌や発行物にシガレットの広告を出すことをやめた。</p>	<p align="center"><b>ワインダー博士の実験結果について</b></p>	<p>どれほどの人間がシガレットのタールを濃縮して背中に塗るのか？</p> <p>ワインダー博士があわれなマウスたちに塗りつけたのと同じくらいの量のタールとニコチンを吸収するためには、人間は毎日64カートン相当のシガレットを75年間吸わなければならない。</p>
<p>喫煙に関して起こりつつあった健康への懸念を最小化し、歪め、無視するためのプロパガンダとなる道具。</p> <p>ロビーイング組織に過ぎない。</p> <p>タバコ会社は共同研究の努力を、「タバコ産業が購入できる最良でもっとも安価な保険であり、もしこれがないとしたら、つくりあげるか死ぬしかなかったろう」と評価していた。</p>	<p align="center"><b>タバコ産業研究協議会 (TIRC) について</b></p>	<p>責任ある方法で健康問題を研究する共同の努力を払うことにした。</p> <p>「人々の健康に関する関心は、事業上の他の一切の考慮に優先する、基本的な責任」であることを宣言した。</p>

<p>企業の足並みをそろえさせる産業カルテルの本部として攻撃されてきた。</p>	<p><b>TIRC とその後継組織であるタバコ研究協会がカルテルであるかについて</b></p>	<p>もしそれがカルテルだったとしても、まったく機能しなかった。1950年代に、吹き荒れる「癌パニック」に対応して、フィルター付きシガレットを開発して売り込むために、激しく競争した。カルテルを発動するには、あまりにお粗末なやり方。</p>
<p>「シガレットを喫煙することは、アメリカ合衆国において重大な健康上の危険であり、これを是正する行動は正当化される」と、この報告書は宣言した。</p> <p>タバコは健康に良いという話を粉々に吹き飛ばした。</p>	<p><b>1964年の公衆衛生局長官の報告書について</b></p>	<p>フィルターなしのシガレットに基づいているということが見過ごされた。</p> <p>相関関係は因果関係を証明しないというのは統計分析における初歩的な原則。タバコ消費と癌がパラレルであることは、必ずしも一方が他方を引き起こすことを意味しない。タバコ消費に加えて様々な変数が癌の発生率に影響する。</p>
<p>タバコ会社が5歳の子どもまでも含む若者の行動と喫煙傾向について詳細な調査をおこなっていること、そして細っていく顧客ベースを拡大するために若者を狙ってマーケティングと広告を調整している。</p> <p>若者の市場セグメントを支配しようと、フィリップ・モリスとR.J.レイノルズが激しい立ち回りを演じた。</p>	<p><b>若者へのマーケティングについて</b></p>	<p>部下の一部が行った判断が、類まれなる過失だった。</p> <p>私も同僚の経営者たちもまったく気がつかなかった。私たちは今では白日の下にさらされたこのことについて、ショックを受けているし、恥じている。私たちは断じて、子どもたちをマーケティングの対象にすべきだとは考えていないし、そのように公式に言明した。</p>

(作成：釜石 亮)